

前回まで津山城の天守について見てきましたが、今回からしばらく現在復元中で来年3月末に完成予定の「備中櫓」について検討します。今回は第1回目として、この「備中櫓」の名前の由来について考えます。



備中櫓完成予想図

この名前については、「なぜ美作の津山城に備中の櫓があるのか？」という質問をたくさんいただき、今までも別の欄で少しふれたことがあります。再度ここで整理しておきます。

江戸時代に描かれたさまざまな種類の津山城の図面には、現在復元中の位置に「備中櫓」という書き込みがあり、江戸時代を通してこの櫓が「備中櫓」と呼ばれていたことは間違いありません。そこで、この「備中櫓」という名前の由来を調べてみると、津山森藩の基本史料の1つである『森家先代実録』(文化6年(1809)成立)に「備中矢倉、池田備中守長幸入来之節出来」という記載があります。どうやらこの「池田備中守長幸」に関連していることが分かりますが、この「池田備中守長幸」とはどのような人物なのでしょう。

池田備中守長幸は鳥取藩主であり、初代津山藩主である森忠政の長女「於松」はこの長幸に嫁いでいます。そして於松が若くして亡くなった後は、忠政4女の「於宮」

津山城百聞録

51 津山城備中櫓1 『美作なのになぜ「備中」櫓なのか?』

が長幸に嫁いでいます。つまり、忠政にとって備中守長幸は娘を2人も嫁にやった娘婿にあたる人物なのです。その長幸が津山城を訪れるのを機に造られたとされるのが「備中櫓」であると「森家先代実録」には記載されているのです。

ちなみに池田備中守長幸の「備中守」は職名であり、必ずしも備中にいたから「備中守」となるわけではありません(偶然彼は後に備中松山藩主となりました)。ですから地名である「備前」「備中」「備後」「美作」などの「備中」ではなく、鳥取藩主である「池田備中守長幸」にちなんだ「備中」櫓なのです。

話を戻しますが、「森家先代実録」の記載には、ほかにこのような人物にちなんで命名された櫓はありません。それだけ「備中櫓」という名称は特別な意味を持っていたのだと考えられます。



復元作業中の備中櫓のようす

さて、以上のことは「森家先代実録」に記載された名前の由来です。それではこれを裏付けるような物的証拠はないのでしょうか?

実は発掘調査でこの名前の由来を裏付けるような資料が出土しています。それについては次回詳しく説明することにします。

「曳けーっ」ギギギギ。動いた。市民のみなさん200人の手によって曳かれた16トンもの巨石が動き出した瞬間、驚きと感動が。400年前のまちづくりのようすが再現され、それを見届けることができた最高の1日でした。(郁)

緑まぶしい草刈りの季節。野草好きの私には心苦しい仕事ですが、生え放題もまた問題。先日、自宅で草刈中に白く光る物体を発見。正体はシライトソウ(ユリ科)。思わず機械を止め、妖精にも似たその姿に笑み。その日のビールは格別でした。(X)

表紙は築城大石曳きのようすです。左下には、動いた摩擦で起きた煙が写っています。懸命のかけ声、敷木が焼けるにおい、曳き手や観衆の熱気...、写真では伝えられないことをもつと紹介したいけど、もうスペースがないわ。(郁)さんお願い。(e)

編集後記

今月の納税

市県民税1期
介護保険料1期
納期限: 6月30日(水)

ひとの動き

(5月1日現在)
人口 90,073人(前月比+179)
男 42,935人(同+115)
女 47,138人(同+64)
世帯数 35,028世帯(同+177)

4月中の異動数

出生 73人、死亡 68人
転入 590人、転出 416人

編集・発行 津山市企画部行政広報室
〒708-8501岡山県津山市山北520
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-25-0263
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)

発行日 毎月10日
印刷 株式会社 廣陽本社

6月

2004

